

#### 【4】平衡ケーブル敷設での注意点

これから平衡ケーブルを敷設する際には以下のようなことが求められると思われます。

- (1) バンドル数を増やさない/本数が多くなる場合には複数のバンドルに分ける。
- (2) ダクト等の配管経路中にケーブルを配置する場合には、複数のケーブルが相互に同じ位置関係を保ったままで長い距離を敷設しない。可能であれば、バンドルしないで「ばらばら」に配置するほうがよい。それが不可能な場合でも、複数のケーブルをタイ・ラップ等で「きつく」縛ることは避ける。また、管路の充填率は低く抑えるようにする。
- (3) パッチパネルの隣接するポートに同じ管路に敷設されたケーブルを終端することは避ける。
- (4) インタ・コネクト等に用いるパッチコードを「きれいに」揃えて、同じように流すことは避ける。曲げ半径は極力大きくする。
- (5) 可能であれば、シールド・ケーブルやシールド・コードを用いる。